

東由利町報

No. 263 昭和52年9月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



◇稲の刈取り適期

刈取りの適期判断は、出穂後の日平均積算気温で九五〇度（C）を一つのめやすとし、それ以下では未熟粒が多く青米などが目立つし、それ以上一、一〇〇度（C）を越えると急激に胴割米や茶米がでたり、米の光沢も落ち品質が低下します。

外観的判断に基づいて刈取りを判断する場合には、一応のめやすとしては穂のもとの方や枝梗のつけ根に多少の青い穂が残つても、穂全体（穀）の九〇%が黄色になつたら刈取り適期とみなします。その時期は、出穂後の日数で早生が四〇日、中晩生は四五日から五〇日くらいです。

◇刈取り機械の整備と利用計画

バインダーや自脱型コンバインなどの刈取り機械は使用前に点検し、破損や磨耗部分の交換や修理を行い、給油個所には十分給油し完全に整備することが大切です。

また、機械の利用効率を高めるためには組織内で充分に検討し、あらかじめ利用計画をたてておく必要があります。

（東由利町農業総合指導センター）

No. 263

9
1

営農メモ

知事 来町

国道一〇七号線の早期改良などを要望



町側の要望に答える小畠知事

県民のなまの声を広く聞き、県政に反映させたいとして、県内の各市町村を訪問している小畠知事は、後藤総務部次長、加藤地方課長ほか出先機関の所長ら一行十八名とともに、去る八月二十二日本町を訪れ、朋楽荘を会場に町長以下町執行部、町議会関係者、各種団体長など約六十人と懇談しました。

毎年行われている知事の市町訪問は今回で五回目、副知事と二班に分かれて県内全市町村を訪問し、各市町村の実態を把握し、九月県議会に図るべきも冒頭訪問のあいさつに立つた小畠知事は、県が現在すすめている第四次総合開発計画（四総）と本町の関係についてふれ、「……広大な未利用地を農地造成、草地造成し、畑作や畜産の振興が期待できる。また、現在注目されているくりの栽培や山菜の加工など特用林産物の開発

国道一〇七号線は、他の国道改良事業と比較して、本莊・横手間は特に多くの未改良個所をかかえており

特に力説し、その前提として道路網の整備が必要であり、国道一〇七号線、出羽丘陵縦貫道路の整備、県道神岡坂部横渡線、同仁賀保矢島館合線の改良整備をすすめたい、と語りました。このたびの訪問に際し、町が提出した要望事項と県側の回答の要旨は次のとおり。

答 昭和五十二年度は国の予算化が得られず、県費で改良調査費を計上した。県の調査に基づいて、できるだけ早期に改良できるよう国に強力に働きかけていく。

答 県道山崎鴻屋十文字線は昭和五十一年度から改良が進められているところであるが、当路線を公共事業（国）の採択されるようご配意のうえ、一層の促進をはかりたい。

答 ただちに公共事業に移行ということは無理である。昭和五十二年度も二工区に分けて県単独事業で改良していくが、その旨の要望は続けていく。

答 畜産振興対策として、牧道改良事業についても県単農道整備事業補助制度に準じた県単補助の途を講じていただきたい。

答 緊急粗飼料増産総合対策事業、または、団体営草地造成事業の中で牧道改良事業は補助の対象としているが、牧道整備事業だけの補助制度は現時点ではない。今後検討してゆきたい。

今年はその成果をふまえて、八月三・四日には本荘公共職業安定所と共に「ガス溶接技能講習会」を開催し、五十七名の方が技能者資格を得、好評でした。

また、八月十・十一日には「型枠支保工の組立等作業主任者講習会」を（三十二名受講）、七十二名の方が修了証を手にしました。

町では、出かせぎ解消を最終目標としつつも、まだ当分続くものと思われる出かせぎの援護対策事業として、出かせぎ者の要望のある技能講習会を来年度以降も継続する予定です。

七十二名が終了証を手に

懇談会では、参加者の間からこのほか、集落農場化事業や畜産公害、幼保一体事業（幼稚園と保育園を一体で進める事業）などについて活発な意見、質問が寄せられましたが、割愛させていただきます。

主な地方道仁賀保矢島館合線（須郷田橋～石高間）沿いに、昭和五十三年度から県営ほ場整備事業が施行になるので、同路線の改良を同時に施工できるよう、基本改良計画を具体的かつ速急に進めていただきたい。

答 基本的な姿勢として、県では県道整備はほ場整備と同時に進行。同路線についても、ほ場整備計画を勘案の上具体化していく。

答 基本的な姿勢として、県では県道整備はほ場整備と同時に進行。同路線についても、ほ場整備計画を勘案の上具体化していく。

答 本町館合字西久保地区右岸約一〇〇メートルのがけ地天然過年（昭和五十年）護岸工事が施行されたが、なお護岸上部の崩壊が激しく公益上危険な状態にあるので、防止策を講じていただきたい。

答 昭和五十二年度で、河川災害復旧事業として護岸工事（延長五十六メートル捨ブロック）を実施する。

また、上部の崩壊についても善処してまいりたい。

答 まさに、上部の崩壊についても善処してまいりたい。

答 その一つで、同部落の青年が年町内あちこちに誕生しています。

答 館合新田の「獅子舞」も受け継ぎ、守つていこう」とする青年グループが、ここ数年で皆汗だくだく、それでも部落内の評判はよく、ますます磨かれ継承されることでしょう。



紙のとば

中心となり昨年から復活しました。八月十二日——夕暮れとともに悪魔払いをして部落内各家々を回りました。

屋外で聞く笛や太鼓の音は白壁やサッシの窓と少しも異和感がないのがとても快く、全戸を回り終えたのは午前0時過ぎで皆汗だくだく、それでも部落内の評判はよく、ますます磨かれ継承されています。

（八月十二日撮影）

待たれる法内線の早期改良



早期改良が待たれる法内線……舗装も着々と

一般に「県道」と呼ばれているものの中には二つのランクがあり、一つは「主要地方道」、もう一つは「一般県道」と呼ばれるもので、うち主要地方道三路線（矢島線）、仁賀保矢島館合線（矢島線）、一般県道三路線＝山崎鴻屋十文字線（松柴線）、櫛渕横渡線（黒沢線）、老方沼館線（祝沢線）あります。

主要地方道は一般県道に比べてランクが上であり、この中で最も早く改良舗装がすんだのは、バス路線になっている黒渕線です（なお、同路線は現在町がすすめている第二次農業構造改善事業の中の南部地区のほ場整備と併せて、拡幅再改良の計画がすすめられています）。

次いで改良がすんでいるのが、昭和四十七年度から昨年度まで一億六千万円の事業費で第一種改良事業（全体事業費の半分が限定されているもので、国県

の県道があり、後向田館合線（黒沢線）、神岡坂部横渡

線（法内線）、

町には六本

の県道があり、うち主要地方

道三路線＝羽

後向田館合線（黒沢線）、

（黒沢線）、

178人が大人の仲間入り

すっかり定着した夏の成人式



1人1人が大人を自覚……新しい出発おめでとう

一つの青春にピリオドを打つのだ。何よりも信条を持つて生きている人間は、いつでも態度が凜然としている。

しかし、私は例え、仕事の上などで判断力の弱さを痛切に感じることがある。経験や知識も不足しているだろうが、自分なりの考えがしつかりとしたものではないからだろうと思う。

車の運転に例えると、道路情報や交通標識についての知識があり、運転マナーを守るという

青春という高まりと絶望を繰り返す、不定極まる精神状態の中で、私は今“人生をどう生きるか、どう生きているのか”と自分に問いかけ、模索している。生涯を打ち込める仕事を見つけ、それを責任を持つてやり遂げられるようになつた時、真に社会から認められる人間となり

力にさなごとくではなくても、和
たちにとつていろいろな意味で
精神的自立を促されるひとつ
契機とは言えないだろうか。

世間では、「権利と義務の発生、責任の自覚」等ということばで定義づけているようである

れは、各個人の今まで歩いてきた道、そして現在生きている環境によつて違ふであろう。

は私たちにと
つてどういう
意味を持つの
だろうか。そ

私にとつて成人とは

二十歳になつて

藏新田
遠藤
戊



新田 遠藤 成人

これに酔うことなく、平和国家としての繁栄に努力することが

つづいて、町長が「：今日の繁栄は諸英靈の國家に捧げた犠牲の上に築かれたものであり、これに報い、日本国民

どりの生花に埋もるか如く建てられた追悼の標を前に、君が代の斎唱につづいて戦死病没者の靈に黙とうが捧げられました。

場に、しめやかに執行されました。

没者三百十二柱の靈を慰める昭和五十二年度の町戦没者追悼式が、遺族、来賓多数参列のもとに去る八月二十三日朋楽荘を式

しめやかに
町追悼式

二



追悼のことばをのべる
遺子代表の小松久隆さん

青年海外派遣レポート

この夏、当町の四人の青年が相次いで海外へ派遣されました。県青年海外研修事業「訪ソ青年の船」で三人がソ連へ、「日中友好秋田県農業青年の翼」で一人が中国へー。いずれも短かい旅程でしたが、それぞれの分野において多いに見聞を広めてきました。この海外研修で四人の青年が何を知り、何を考えたかを、それぞれのレポート（報告）によつて、二回にわたり紹介します。

自由な日本

ソ連を旅して

畠山基保
(袖山)

秋田港を出発した船が、一昼夜でソ連に着くとは想像もしてみなかつた。世界の超大国、全世界の大陸の六分の一を占め、百二十六の民族と十五の共和国からなるソ連邦が、こんなに近いとは知らず、自己の認識の乏

ソ連船ハバロフスク号の船旅は、好天に恵まれ、初めてのロシア料理と仕事に忠実なロシア娘の気持ちの良い歓待で、時たつのを忘れるほどに楽しいものだった。

ナホトカは、曇天の空から小雨がぱらついていた。ソ連の第一の印象は、暗さだった。接岸した船から見おろすナホトカは色彩感覚に乏しく、灰色の建物が曇天の空にしみいるようにたたずみ、街の人々が三々五々集まり無表情で船を見上げていた歓迎のエレキバンドがかなでる

モスクワには、あまりにも整然とした冷たさ、暗さがあり、中央アジアには卑屈な暗さがつた。行きかう人々は無表情で黙々と歩いている。親子、友だち、恋人同志でも、談笑しながら歩く風景は見られない。このことは、ソ連の体制と風土に密接な関係があるようと思われる。ソ連の体制下では「何を考えても自由だ。しかし、反社会的な行動があれば排他される」と言う。社会主義の枠組みの中での思考は自由という考え方であ

カン高い声と、ピオネール（子どもの教外教育組織）員の赤い帽子、赤いマフラーが心に残つた。この暗さと人々の無表情さは、若者との交流の時をのぞきソ連地内で私の目から離れることはなかつた。

また、ソ連には百二十六の民族があるという。たしかに、モスクワ近在には白ロシア人が多く、美人が多い。ところが中央アジア（タシケント、ドウシゼンペ）に行くと、全く異質である。モンゴル系、インド系、エジプト系等々、シルクロードの歴史がうかがえる。言語、風習の違う民族が混在した場合、人は黙すのではなかろうか。無表情なソ連人、それはまちがいなくソ連邦が作り出したものである。

る。その中で人は口をつぐむ。
ソ連の冬は長い。十月頃から
四月頃までは、モスクワでも冰
点下二十二度から三十度にもな
ると言う。自然の過酷なまでの
支配は人を黙らせる。

ソ連青年と歓談する島山さん

無尽蔵に近い未開地

することを考えるとき、同じ塾の中にはめた共通の目標を持たせざるを得まい。その共通の目

それだけソ連は広すぎ、異民族が多く、自然条件があまりにも過酷すぎる。

質素なソ連人の生活

モスクワの宿舎は、クレムリン宮殿のまん前、ロシヤホテルだった。外形からみるとロシヤホテルには、万国期が並びどつしりした近代的な建物だった。ロビーに入るところがロビーかと思わせるほど質素である。豪華な雰囲気は一つもない。天井のシャンデリアがもうしわけ程度にさがっている。

六万四千円という点から考へても、いかに高いかがわからう。一部のもののレベルを上げるや
り方でなく、全体のレベルを上
げるという国の施策である。計
画経済と自由経済の進展の違い
を見る気がする。私はどちらを
選ぶかと問われたら後者を選ぶ
なぜなら、そこには人としての
ハリとはげみがあるからである。

部屋に入つて驚くのは洋服タンスである。厚いベニヤ板で作つたものに取手をつけただけのもの。充分に洋服タンスとしての機能は果たすが、美的感覚に欠ける。

もハ工がいる。料理はおいしげ
がハ工がいるのには閉口した。
モスクワ一流のホテルがこのよ
うであるから、他もおしてしま
べしである。特に便所の汚れに
はいや気がした。公衆衛生の要
きには驚くばかりである。

タシケントで農家を訪問する
機会に恵まれた。平家建ての簡
素な、手入れのゆきとどいた部
屋の中にはベットと洋服タンス
ある部屋にはソファードとテーブ
ルがおいてある。まったく質素
である。ロシア人の気質がうとう

ソ連に学ぶ点が多い

ソ連の夏は昼が長い。朝三時過ぎになると夜があけ、午後の九時過ぎにならないと日が暮れない。町の中に緑が豊富だ。いたるところに公園がある。夕方になると、散策する人の姿が多く目につく。日曜日には日中も散策する人が多い。

ハバロフスクのマコム川ではいっぱいの人気がジツと川を見ていた。ソ連は娯楽に乏しい。日本でいうパチンコや麻雀、飲み屋などは一軒もない。自然と散策が多くなる。散策の中で自己に問い合わせ、自己と語ることのできるソ連人に、すぐれた芸術家の輩出する素地を見たような気持ちがする。

東由利町報
二六三 昭和五十二年九月一日発行

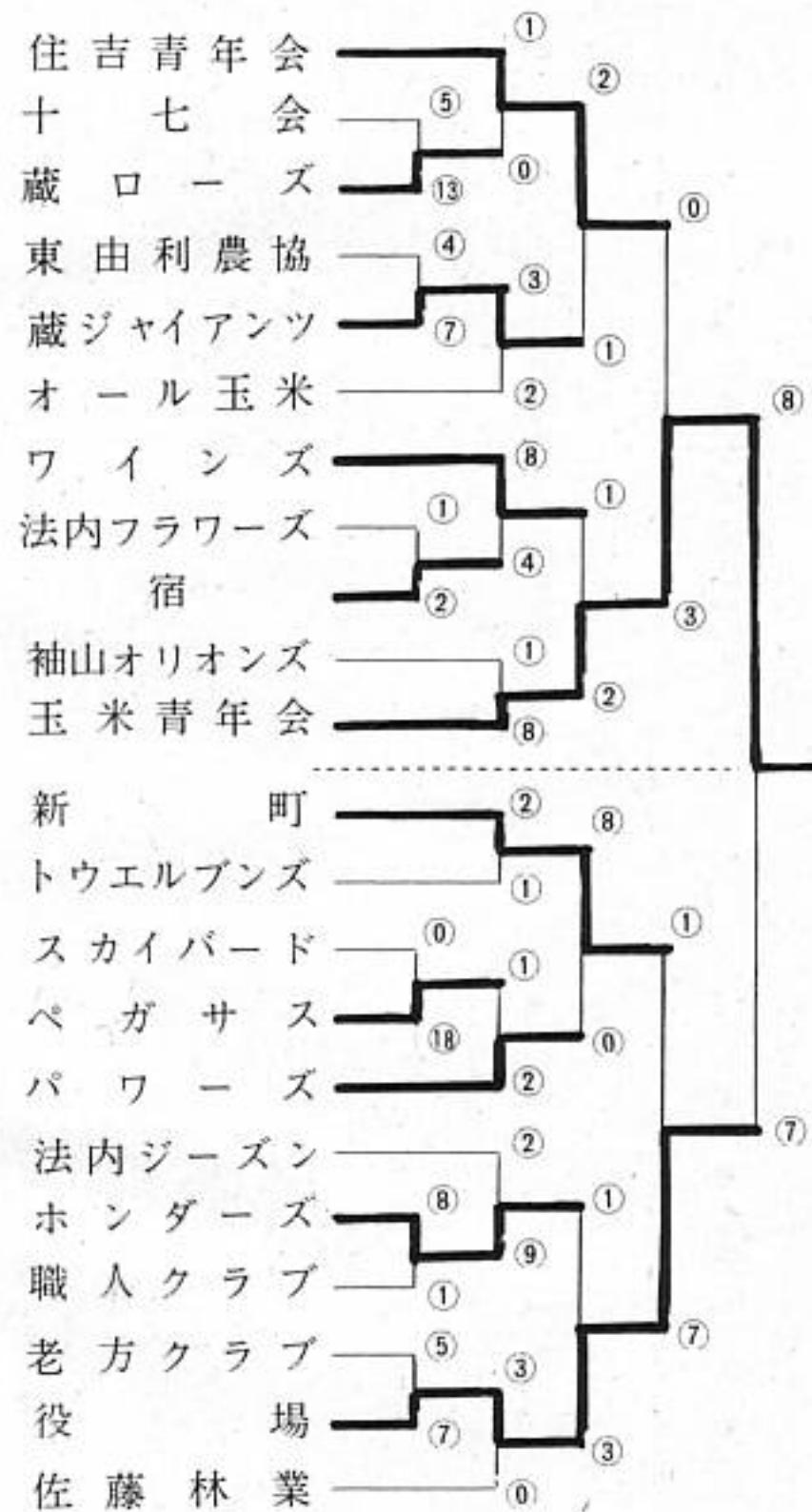
昭和42年7月21日第二種郵便許可
発行 秋田県東由利町役場 毎月一日・十五日発行

一部20円 印刷 KK本間印刷所



トロフィー、賞状を手に初優勝の喜びを
かみしめる玉米青年会チーム

第19回東由利町社会人野球大会戦績一覧



とじまりは
しつかりと、

○お悔み申し上げます

第十九回 明社会人野球大会

初優勝



は

• 10 •

決勝は、並み居る古豪を下し、初の決勝進出を果たした玉米青年会チームと、古豪が相次いで序盤戦で崩れていく中で一人氣

問

10

の 提 言

先ごろ、町（国保）から「家庭薬」が配布されました。これは富山の配置薬のように継続して、毎年交換するものです。

答
（一町民）
国民健康保険（国保）の財政事情が年々悪化している最大の理由として、医療費の著しい伸びがあげられており、町の実態を調査したところ、この伸びを

答えできませんが、いずれ年度内にアンケート調査を行はその結果に基づいて以後のことを検討したいと考えています。

国保配布薬は継続するのか?

ました。

慶弔

7月2日～8月2日

117

周易

卷之二

(住民課国保係)

東由利町報

No. 264 昭和52年9月15日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



稻作

◎自然乾燥の留意点

自然乾燥は、乾燥後二週間程度で水分十五%くらいに乾くが、秋の気象状態により検査規格以上の水分過多米ができることがありますので、収納前には必ず水分測定器で測定し収納することが大切です。

◎機械乾燥の留意点

乾燥機の使用法をあやまると、胴割粒、過乾燥米、異臭米などが発生する場合がありますので、その機械によって定められた張込量と、それに対応する送風温度で乾燥しますが、一応の目やすとしては、平均穀粒温度三〇度(℃)以下、毎時乾燥減率〇・八%程度とし、急激な乾燥はさけます。また、水分測定は綿密に行うことが大切です。

コンバインで脱穀され樹脂袋に入れられた生穀は、穀の水分、気温の関係で、含水率二十八%程度では貯留限界は七~八時間が限界とされます。屋外での直射日光、多量に堆積した場合は変質が早くなるので、なるべく早く乾燥機に入れるよう注意が必要です。

(東由利町農業総合指導センター)

No. 264

9 / 15



婦人会員らの心のこもった接待で楽しい一日を過ごした老人たち

九月は「敬老の月」です。町では、長年にわたって社会のために尽してこられたおじいさん、おばあさんを敬愛し、長寿をお祝いするため、今年も九月二日の館合地区を最初に町内各地区（七地区）別に「敬老会」を開催しました。

敬老会には、七十歳以上のおじいさん、おばあさん四百二十六人が招待され、町や県から敬老祝金などが贈られたほか、地区婦人会員らの心のこもった接待で、楽しい一日をすごしました。

敬老会で楽しむ —日

おじいちゃん・おばあちゃん

長い人生の 経験を後輩に

今年の敬老会は、法内地区が克雪管理センターを、住吉地区が田代保健福祉館を、袖山地区が袖山小学校を会場にそれぞれ行われ、他の四地区は朋楽荘を会場に行いました。

各会場とも、最初に主催者を代表して町長（会場によっては助役、収入役または教育長のところもある）が、長年にわたるご労苦に対するねぎらいと、长寿のお祝いのことばをのべました。

九月五日、藏地区の会場に出席した町長は「……寿命が伸びているとは言つても、節制を守り健康で七十歳までに、あるいはそれ以上に生きることは大変なことです。これまでの長い人生の経験を我々後輩にお諭しくださいますようお願ひするど

もに、今後ますます健康に留意され、九十歳までも百歳までも長生してください……」と、长寿をたたえてお祝いのことばをのべました。

このあと、結婚五十年を迎えた金婚のご夫婦（全町で六組）には祝状と記念品が、今年満八十歳になられたお寄り（全町で十五人）には額入りの記念肖像写真が、また、今年米寿（かぞえの八十八歳）になられたお年寄り（全町で一人）には敬老祝金が、それぞれ町から贈られたほか、県からも七十五歳以上のお年寄り全員に敬老祝金が贈られました。

料理やお酒などの接待、歌や

東		西	
横綱	佐々木	ユキノ	95 大琴
タ	鈴木	錦一	91 沼沼
タ	小松	徳太郎	90 中通
大関	畠山	子之吉	89 大吹川
関脇	小松	ナツエ	87 山崎
小結	藤田	治吉郎	86 山寺
佐	長谷山	キヨエ	86 下下通
長	佐々木	ハルノ	86 大吹川
谷	田	アキノ	85 新海保
山	藤	太郎	85 新袖
佐	藤与茂二郎	吉	85 高戸屋
遠	太	寅次郎	84 小倉
鈴	藤	アヤノ	84 宇戸坂
小	木	キタツメ	83 中寺
遠	松	八	83 寺
鈴	藤	マサエ	83 祝
小	山	貞	83 蔵
遠	佐	ナ	83 沢
鈴	佐	浅	83 新高
小	佐	ノブエ	83 高
遠	佐	吉	83 阿
鈴	阿	作	83 岩
小	遠	勇	83 木
遠	小	作	83 舟
鈴	大	ト	83 道
小	佐	ト	83 徳
遠	佐	ヨ	83 佐
鈴	藤	ス	83 マチノ
小	松	ハ	83 幸
遠	原	シ	83 吉
鈴	津	チ	83 助
小	梅	ノ	83 德
遠	阿	ス	83 佐
鈴	高	ハ	83 岩
小	梅	シ	83 木
遠	阿	ス	83 舟
鈴	高	ト	83 道
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ト	83 徳
鈴	高	ヨ	83 佐
小	梅	ス	83 岩
遠	阿	ハ	83 木
鈴	高	シ	83 舟
小	梅	チ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠	阿	ス	83 木
鈴	高	ト	83 舟
小	梅	ヨ	83 道
遠	阿	ス	83 徳
鈴	高	ト	83 佐
小	梅	ヨ	83 岩
遠			

秋の全国交通安全運動

9月21日

(9月30日)

重点目標

- 歩行者・自転車利用者の事故防止
- 暴走運転の徹底追放
- 飲酒運転の徹底追放

町では、結婚五十年を迎えたご夫婦を毎年お祝いしています。今年も大正十五年九月十六日から昭和二年九月十五日までの間に届け出された、下の六組の仲むつまじいご夫婦がめでたく金婚を迎えられ、敬老会といっしょに祝福されました。

一口に五十年とは言つても、お二人とも健康で金婚を迎えることはたいへんなことです。

などの行政施策をすすめ、老人福祉の充実に努めています。また、社会教育面から老人クラブなど老人たちの自主的な生きがい活動にも助成していますが、それだけではまだまだ十分とは言えません。

今はまだ“若い”と思っている人にも“老い”は確実に訪れます。生きがいのある幸せな老後の暮らしはどうしたら達成できるか、敬老の日を機会に町民一人一人が、家族みんなが真剣に考えてみる時間を持ちたいものです。

金婚の

カツブルは六組

金



佐藤喜市 (67歳)

ハツノ (67歳)

Nishizawa

婚



仙道信次郎 (72歳)

カネヨ (66歳)

Nishizawa



小笠原豊吉 (69歳)

フサノ (69歳)

Yokose



遠藤藤八 (72歳)

トメノ (68歳)

Noda



小松光治郎 (73歳)

ヤスウ (70歳)

Nishinomachi



加藤太吉郎 (75歳)

キミヨ (68歳)

Yoshiba

青年海外派遣レポート

「青年海外派遣レポート」前回は、訪ソ青年の船モスクワ中央アジアコースに参加した畠山基保さんとモスクワアルメニアコースに参加した鈴木富士子さんのレポートを紹介しました。

二回目の今回は、訪ソ青年の船モスクワ中央アジアコースに参加した小野敦子さんと日中友好秋田県農業青年の翼に参加した佐藤久志さんのレポートを紹介します。

私の見たソ連

小野敦子(下小屋)

美しく壮大な大国ソ連邦は、限りない夢と希望を与えてくれました。

七時間とあつて一日が三十三時間とは、ソ連の広さを物語るのに十分でした。

して日本の資本主義社会とは対象的な多くの特質をもち、そのうえ約一三〇種の大小さまざまな民族から成る多民族国家であり、他の社会とは著しく異なつた社会構造や社会制度をもつておりました。



ピオネールキャンプ場の子どもといっしょに小野さん

ソ連は労働者の国としてなかでも女性の働きがひじょうに大きく、バスの運転手、駅員、医師などの各方面で貢献的活躍をしており、それに伴い幼稚園託児所などの教育制度は

どもたちに緑の中で夏休みを利
用し、徹底した道徳教育と集団生活が規律正しく行われておりピオネールでは学校の継続として、労働する教育とスポーツでからだを鍛えること、また、楽しく自然に親しみながら人々のために役立つことなど、広い知識を習得させておりました。

いずれも基礎的なこととして愛国心、労働、自然、平和というについて日夜徹底した道徳教育を教えられているという

発展させた理論
存在していまし
ニンの偉大なる
業績をたたえ
る様子は、他
国人の我々に
も推測できま
した。

私たち、モスクワとイルク
ーツクの二個所でピオネールキ
ヤンプといつて日本でいうと林
間学校に相当するキャンプ場を
訪問することができました。こ
こは二度、うち一日程度の二

道徳教育

徹底している

ノルマ主義

またモスクワではソフオリズ（国営農場）を見学できました。さすがにソ連で一番大きいというだけあって、五十四㌶のハウスでトマトやキュウリが栽培されており、温度調節から消毒まで完全なオートメーション化され、環境が自動的につくられる仕組でした。土壤交換の必要性をなくするために地下七十

台風のシーズンです。住まいの方もそれに合わせた準備が必要です。

* * * *

まず、涼風が立つてくると、どこのお家もすだれを外し、ふすまを立て、冬型の室内配置を考えますが、今年は単に冬の住まい上便利という点だけでなく安全という要素も加味したいものです。

生み出しておおり、また、ピオネールキャンプ場、幼稚園、コル

フォース・ソフオーズの農場などでも、社会主义国ソビエト連邦の基礎を作った革命指導者でもあ

充実されて、学校はすべて国家によつて開設、維持、経営されておりあらゆる段階での授業料は無料で、通信教育、夜間の教育施設も広く発達してしました

感じを受けました。

四百一〇

この遺跡は、縄文時代末期（今から二五〇〇年—三〇〇〇年前）のものであり、これまでに多数の土器、石器のほかに、全国でも例の少ない墓構群なども発掘されており、この中からは副葬品と思われる首飾りや耳飾りなども出土しています。



表紙の ことば



“中国の農業に学ぶところは

多い”といふ佐藤さん（大寒で）

の深さまで百度の熱湯を入れ土壤消毒する農業には驚きました。『すべての環境はつくることができるが、ただ一つつくれないものは太陽だ』と話しておりました。ソフオーズ、コルフォーズともあらゆる面で優遇され、農場近くにはアパートが立ち並び、学校、病院などの施設が整備されている生活でした。

しかし、農場で働く人々の表情には活気が見られず、生産性は低く、農業で働く人々の表

「明るく楽しく整然と」をモットーにJAL（日本航空）七八一便で、七月二十七日午前九時羽田空港を出発し、十二時三十五分に北京空港に到着した。

中国大陸に一步足を入れたときは、何んと質素な空港だろうと思つた。北京は言うまでもなく社会主義中国の首都であるし全中国的政治経済の中心でもあるが、その空港はただ必要な滑走路に事務的に必要な建物だけ

質素な生活 大切にされる自然

ソ連には、個人経営の工場や商店ではなく、自由競争もない国家であり、政府は企業活動の実

という感じでした。日本の現状と比較しあまりの違いにただただ驚くばかりでした。

だが、空港を離れて北京街に入ると、ホテルや天安門故宮の敷地建物、人民大会堂、中国革

命博物館など想像を絶する建物に目を見はりました。

特に、五百五十年も前に建造されたという故宮は、十五万平方㍍の建築面積で、中国に現存するもつとも大きくもつとも完

えられ、広場や公園はいたる所

にあります。

河と森、果てしなくマン

すつきりとした建築物が立ち並

び、アパートの窓辺には花が植

えられ、広場や公園はいたる所

にあります。

ふれるシベリア、私の青春の思

いです。

河と森、果てしなくマン

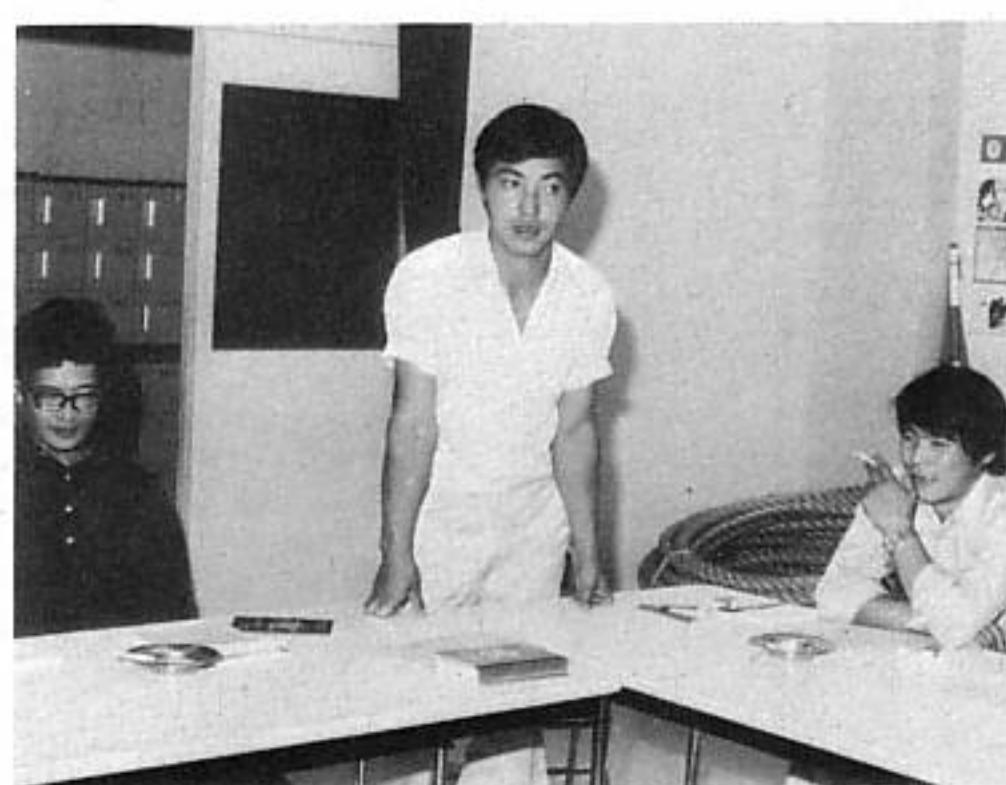
すつきりとした建築物が立ち並

び、アパートの窓辺には花が植

えられ、広場や公園はいたる所

にあります。

河と森、果てしなくマン



▶ヤンチャヤレは若さでムンムンして
いた……この熱気が町をつくる

このセミナーには、全町の青年男女四十六人が参加、広範にわたって学習しました。そのな

リーダーのあり方と会運営の技法を学ぶ”を学習主題に、六月から開かれていた「ヤングチャレンジセミナー」は、去る九月八日の“町づくりにチャレンジ”を最後に閉講しました。

盛会のうちに閉講

◆ヤングチャレンジセミナー◆

第一期は十一月から

◎第一回目 六月九日

青年心理にチャレンジ

かでの東由利青年の意識さくつてみました。

◎第四回目 七月二十一日
孔版にチャレンジ

小松社会教育係長を講師に、鐵筆や原紙、ヤスリの選び方から製版の技法、印刷の技法まで

活動内容の違いに終始圧倒されましたが、個々の内面には数々の問い合わせるものがあつたよう。

◎第二回目 六月二十三日

会報づくりにチャレンジ

横手市の藤原久八氏の講話のあと、現代青年の意識を中心にな

な討論を行う。

講師との意見の対立のなかに“自己を確立しよう”“先

人の足跡をカガミにしよう”とする青年意識がうかがわれた。

◎第五回目 八月二十五日

自己にチャレンジ

第一回目の講師藤原氏の講和

「青年としての積極的な人生觀と生きがいの探求」のあと、全員で話し合い。人生とは……、生きがいとは……、生存の理由は……、それぞれに自己のこれまでの生き方に問いかけるものあつたはず……。

問題であるだけに、講師との意見の一貫はみなかつたが、町の将来を考え、農業の将来を拓こうとする意欲で“生きた討論”となつた。

セミナーは、各回とも“学ぼう”とする青年たちの意欲でムンムンしており、盛会のなかに閉講しました。

昭和53年歌会始 の詠進歌を募集

訂 正

10月11日までです。

詳細については、役場広報係へおたずねください。

町公民館では、このあと十一月から来春にかけて本年度二期目の同セミナーを開講しますので、多くの青年の参加がのぞまっています。

宮内庁では、昭和53年歌会始の詠進歌を募集しています。お題は「母」で、歌には母（はは）の語意のある他のことばなどと用いてもよいが、人

事は、「……国が目下検討中で引き上げられた……」という記述は、「……高額療養費限度額がある」という内容の誤りです。お詫びの上訂正いたします。

なお、決定になり次第あらためてお知らせいたします。



町の概要

人口総数	6,535人
うち男	3,203人
うち女	3,332人
世帯数	1,483戸
面積	148.51km ²

(52・9・1現在)

◎第三回目 七月二二三日

他町の青年にチャレンジ

県内一の活動実績を誇る雄和町青年会を一泊二日で訪問。本

町青年会との組織基盤の違い、活動内容の違いに終始圧倒され

ていたが、個々の内面には数々の問い合わせるものがあつたよう。

走れ!! 青春

君
(上里)
二人姉弟の弟
小野孝悦

昭和33年12月12日生

(農業)



- ◆高校を卒業して6ヶ月、社会人となっての感想は…。
*仕事をしていますので、社会人になったという実感はありますか、知らないことばかりですので、いろいろな面で勉強したい。
 - ◆今一番やってみたいことは……。
*現在までは町内の人としかつき合いがなかったので、これからは全国のいろいろな人とつき合うことができるような機会をつくりたい。
 - ◆君にとって「青春の実感」とは何だろう。
*具体的には例がでませんが、何でも打ちこむことができ、やり直しがきく青春ではないでしょうか。
 - ◆町(行政)について一言。
*いずれ自分にも直面することですか、嫁不足に対しては他町村青年との交流の機会をもっと増やすなどの対策があってもいいのではないか……。
- *ポールモリアオーケストラの演奏を聞くのが楽しみ……と言ふ彼、「明るさが自分のとりえ」という好青年でした。(インタビュアー 小松)